

2022年7月8日 全5頁

ジョンソン首相、無念の辞任表明

次期首相は誰の手に、秋の党大会まで暫定首相でいられるか？

ユーロウェイブ@欧州経済・金融市場 Vol. 198

ロンドンリサーチセンター シニアエコノミスト 菅野泰夫

[要約]

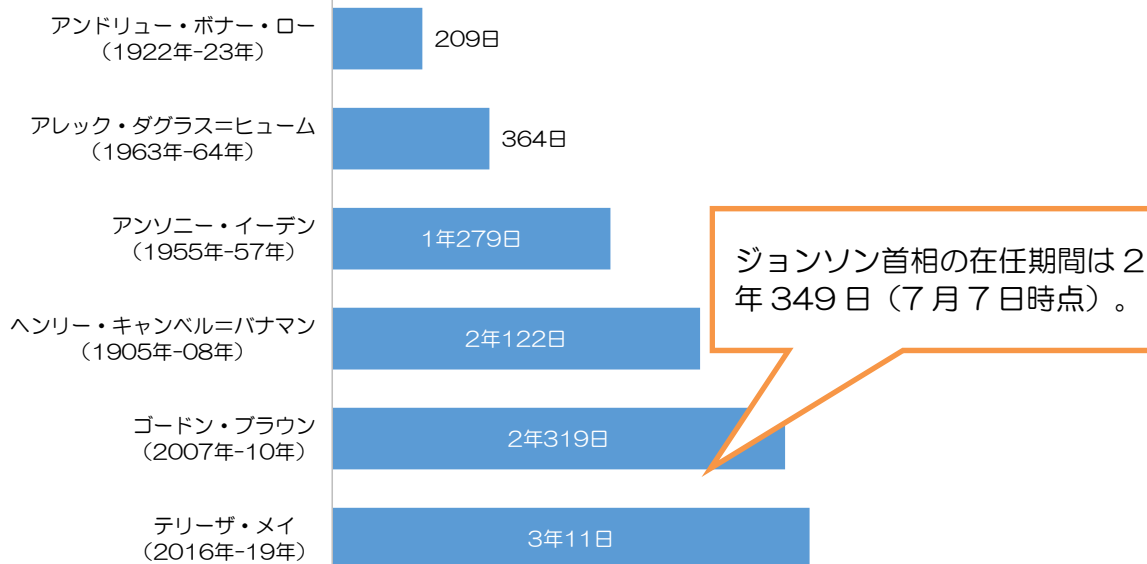
- 英国のジョンソン首相は二日間で50を超す閣僚や次官など政府要職の相次ぐ辞任により政治的な権威を失い、2022年7月7日に保守党党首を辞任する旨を発表した。首相在任期間は（同7日時点で）2年349日とメイ前首相（3年11日）より短くなる可能性がある。
- ジョンソン首相の党首辞任表明は、実質的に保守党党首選がスタートしたことを意味する。現段階でも10名近くの候補者の名前が取り沙汰されるなど、前回（2019年）と同様に混戦が予想されている。大手ブックメーカーの予想でトップに立ったウォレス国防相はここ数カ月で与党内での支持率を高め、モダン通商政策担当国務相やスナク前財務相、トラス外相など主要候補と目される人物を全て抑えて最有力候補につけた。2021年夏のアフガニスタンからの米軍撤退時に、難民や英国国民の避難を指揮した際のリーダーシップや、ウクライナ危機での冷静沈着な対応が一般議員からも称賛されている。
- ジョンソン首相は首相官邸前で行った辞任表明演説で、新たな党首が選出されるまで暫定首相を務める意向を明らかにした。つまりジョンソン首相は保守党党首を7月7日に辞任するものの、新たな保守党党首が決まるまでの暫定首相として在任する意向を示した。10月2日から5日までバーミンガムで開催される保守党大会までに結論は出ると考えられているが、新党首誕生までジョンソン首相が希望通り首相の座に残ることが、許容されるかは疑問である。閣僚経験者や保守党重鎮の間でも、ここ数日のジョンソン首相の言動は目に余るとし、一刻も早く首相の座から降ろすべきとの声が高まっている。多くの閣僚辞任に加えて、保守党への信頼感が失われたのも首相が原因として早期退任を促す声が止まらない。

ジョンソン首相が辞任を表明

英国のジョンソン首相は二日間で50を超す閣僚や次官など政府要職の相次ぐ辞任により政治的な権威を失い、2022年7月7日に保守党党首を辞任する旨を発表した。首相在任期間は（同7日時点で）2年間349日とメイ前首相（3年11日）より短くなる可能性がある。

先月の党首不信任決議は否決され、これで進退をめぐる議論に終止符が打たれたとして、ジョンソン首相は続投への決意を明確に示していた。しかし、求心力の低下は明らかな上、ウクライナ危機により拍車の掛かった物価高騰や、それでも決行した増税により庶民の間でも首相の人気は落ちていった。さらに保守党の院内副幹事の過去の不祥事に関し、任命責任を問われた首相が、不祥事について知らなかったと嘘をついたことは、政権幹部からも強い反発を招いた。7月5日に首相が嘘を認め謝罪すると、ジャビド保健相とスナク財務相が相次いで抗議の辞任をした。パテル内務相やシャップス運輸相など、首相に忠実と目されてきた閣僚からも、自ら退任する方がよいと勧められる事態となった。7月6日夜には同日朝に辞任を勧告したゴープレベルアップ・住宅・コミュニティ相を更迭したが、辞任を求める声に歯止めは掛からなかった。7日朝になっても抗議の辞任は続き、首相への辞任圧力はさらに高まった。スナク財務相の後任となったザハウィ財務相は、7日朝に首相あての書簡にて、今すぐ辞任すべきと説いた。これ以上耐えられないと悟ったのか、ジョンソン首相は1922年委員会のブレイディ議長と話し、保守党党首の座を7日付で退任することで合意した。

図表1 歴代在任期間が短い英国首相（1900年以降）



(出所) BBC より大和総研作成

追い打ちを掛けるように与党内外が早期辞任を要求

ジョンソン首相は7日午後、首相官邸前で行った辞任表明演説で、新たな党首が選出される

まで首相を務める意向を明らかにした。つまりジョンソン首相は保守党党首を7月7日に辞任するものの、新たな保守党党首（つまり首相）が決まるまでの暫定首相として在任する意向を示した（あと28日間、8月4日まで在任すれば、メイ首相の在任期間を抜くことになる）。

図表2 保守党党首選、立候補予想者とそのオッズ（7月7日時点）

No	候補者	年齢	オッズ (Ladbrokes社、 7月7日時点)
1	ウォレス国防相	52歳	27%
2	スナク前財務相	42歳	18%
3	モーダント通商政策担当国務相	49歳	14%
4	トラス外相	46歳	11%
5	ジャビド前保健相	52歳	11%
6	トゥーゲントハット議員	49歳	9%
7	ザハウィ財務相	55歳	8%
8	ハント元保健相	55歳	7%
9	ベイカー議員	51歳	6%
10	ブレーバーマン法務長官	42歳	2%

（出所）保守党ウェブサイト、Ladbrokes 社より大和総研作成

党首選を所管する1922年委員会は、日程や詳細なプロセスについて来週以降に決定するとされており、新党首誕生までに相応の時間が掛かることが予想される。このため、それほど長い間ジョンソン氏が首相の座に留まることが懸念され、早く退任すべきではないかとの声が、与党内外で強まりつつある。労働党のスターマー党首も、ジョンソン首相が権力の座にしがみつくとのは英国にとってフェアではないと述べ、与党から三行半を突きつけられた首相が党首選の間に影響力を及ぼすべきではないとし、首相も辞任すべきと主張した。議会に不信任投票動議を提出する用意もあるという。10月2日から5日までバーミンガムで開催される保守党大会までには結論は出ると考えられているが、新党首誕生までジョンソン首相が希望通り首相の座に残ることが、許容されるかは疑問である。キャメロン元首相もメイ前首相も、党首選での結論が出るまで首相を続けた。このため、ジョンソン首相の継続も異例ではないが、数々の物議を醸した行動や評判からは政界はもとより世論がそれを許さない可能性がある。

なお、現段階でも10名近くの候補者の名前が取り沙汰されるなど、前回（2019年）と同様に

混戦が予想されている。大手ブックメーカーの予想でトップにつけたウォレス国防相はここ数カ月で与党内での支持率を高め、モダント通商政策担当国務相やスナク前財務相、トラス外相など主要候補と目される人物を抑えている。2021年夏のアフガニスタンからの米軍撤退時に、難民や英国国民の避難を指揮した際のリーダーシップや、ウクライナ危機での冷静沈着な対応が一般議員からも称賛されている。

党首選のスケジュール（前回の党首選党則の変更により短期決戦にシフト）

保守党党首選は2つのステージに分かれ、第1ステージでは、保守党議員が保守党全体の決選投票に進む2候補者を選び、第2ステージでは全国の保守党党员（約18万人）が1党员1票ベースで郵便投票を行う。党首の当選要件はこの第2ステージでの過半数の獲得である（第1ステージで立候補者が2名であった場合は、決選投票のみ実施する）。2001年から現在の方式で実施されており、それ以前は最終投票でも一般党员は投票できなかった。なお、1922年委員会は、候補者乱立を懸念し、前回2019年党首選時にその期間短縮に向け党則を変更し、出馬に必要な議員推薦数が2名から8名に引き上げられた。

図表3 保守党党首選スケジュール（2019年）

項目	日程（2019年）	詳細
候補者締め切り	6月10日	8議員の推薦が立候補の要件
第1次投票（議員投票）	6月13日	5%（17議員）の支持がなければ落選
第2次投票（議員投票）	6月18日	10%（33議員）の支持がなければ落選
第3次投票（議員投票）	6月19日	最終候補が2人になるまで投票実施
第4次、第5次投票（議員投票）	6月20日	
決選投票（保守党党员投票）	6月22日 ～7月22日	一般党员の過半数獲得が当選要件
決選投票結果発表	7月23日	

（出所）保守党ウェブサイトより大和総研作成

また決選投票に進む2議員を選ぶまでは、得票数が最も少ない候補者が1人ずつ脱落する方式だったが、2019年時は立候補者が多かったため、第1次の投票では、約5%（17議員）にあたる得票率が、次回投票に進む際の最低条件となった。第2次の投票では、約10%（33議員）にあたる得票率までハードルが上がった。それでも、候補者が2人に絞り込まれなかったため、第3次、第4次、第5次と投票を行い、最も得票数の少ない議員を脱落させていった。2016年

の党首選では、決選投票の前に、最終 2 候補に選ばれたレッドソンエネルギー担当相（当時）が対立候補のメイ議員支持を表明して、決選投票進出を辞退した。2019 年時も数人に候補が絞られた際に、組閣時の主要閣僚ポストを狙い、決選投票で勝利が確実視されたジョンソン候補への支持を表明し、立候補を取り下げるなどの政治的な駆け引きが見られた。また決選投票は郵送で行うため時間が掛かるので、2019 年時は最終投票までの第 1 ステージは同日に 2 回投票を実施するなど、期間の短縮も図られた。

閣僚経験者や保守党重鎮の中にも、ここ数日のジョンソン首相の言動は目に余るとし、一刻も早く首相の座から降ろすべきとの声が高まっている。なお、ジョンソン首相が、新党首決定前に辞任すれば、暫定首相を務めるのはラーブ副首相となる（ラーブ副首相が党首選に出馬しないことが前提）。ただ首相辞任後、副首相が暫定首相になるのは、英国では前例がない。そのためジョンソン首相退陣を早めるオプションとして、保守党党员による投票をやめ、保守党議員のみの選挙の上、次期首相を決めるという声も大きくなりつつある。いずれにしろ、ジョンソン首相が英国に影響を及ぼす決定をする権力を維持することは懸念を招くとしている。多くの閣僚辞任に加えて、保守党への信頼感が失われたのも首相が原因として早期退任を促す声が止まらない。

(了)